http://decfamily.p1.bindsite.jp/2016/

We 13R

No.082　16/09/23

財布に落ちられた

英表で「態」について勉強したと思うが、ちょっと下の引用を読んでみよう。

＊

西村：じゃあ、「間接受身」なんかどうですか？

野矢：それ、以前西村さんから伺ったことがあって、すごくおもしろかった。ぜひお願いします。

西村：受身、つまり受動態（あるいは受動構文というのは、いろいろな言語にみられますが、その受動構文の中に、間接受身と呼ばれる変わり種があるんです。日本語だけに見られるというわけではないのですが、日本語において顕著に見られる珍しい受身の形なんです。たとえば、「雨に降られちゃった」という表現はごくふつうですよね。これは受身ですが、しかし直接対応する能動文がありません。「太郎は花子に叱られた」であれば、「花子は太郎を叱った」と直接対応する能動文がすぐに思いつきますが、「太郎は雨に降られた」の場合、太郎を目的語とする能動文を作ることができない。こういう、直接対応する能動文をもたないタイプの受動態を、「間接受身」と呼んでいます。ところで、「雨に降られた」はごく自然な日本語なのですが、「財布に落ちられた」はどうですか？

野矢：それは、無理でしょう。日本語として。

西村：だけど、日本語を学んでいる外国人が「雨に降られた」のような受動態を習うと、これを応用して「昨日財布に落ちられました」などと言ってしまうことがあるそうなんです。それで、そういう言い方はしないと教えると、「どうしていけないのか」と聞かれる。なぜ「雨に降られた」は自然なのに、「財布に落ちられた」が不自然なのか。あらためて聞かれるとなかなか答えられない。そこで、認知言語学はそれを説明しようとするわけです。

（西村義樹、野矢茂樹『言語学の教室』、中公新書、2013）

＊

さて、君たちならどう答えますか？（答えは、この本の６ページに）

この本は、「認知言語学」という学問を紹介する本なのだが、言葉に関するいろいろな話が載っていて興味深い。

例えば、「甘い」という言葉は、味覚だけでなく、人間の性格を表現する場合にも使われることがあるが、その場合、ネガティブな評価を表す。味覚の時は肯定的な場合が多い（「おいしい」の意味でも使われる）のに、なぜ、人の性格を表す場合はマイナスになってしまうのか？　このあたりを、①甘いものが好きなのは「女こども」→②「女子ども」は（かつての日本社会で）一段低い存在として扱われていた→③その結果「甘い性格」は一段低い評価を表すようになった　といった順路で考えられるのではないか、といった説が紹介されていたりする。

この本は図書室にも置いてあるし、手軽な新書版でもあるので、前期の現代文でソシュールの話をもとにした言語論についても勉強したことだし、興味のある人はぜひ挑戦してみるとよいだろう。

ちなみに、（ここではホスト役の）野矢先生は、私の畏敬する哲学の先生である。